



Title	2. 学内の交流を創出するピア・サポートを目指して：ピア・サポート、学生、生協書籍部をつなぐ「第2回本活」
Author(s)	厨川, 知彦; 藤原, 美津穂
Citation	北海道大学ピア・サポート活動報告書（平成23年度版）p.27-46
Issue Date	2012-03-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/49492
Type	report
Note	第1部: つながり創出するピア・サポート
File Information	02.kuriyagawa.pdf



[Instructions for use](#)

2. 学内の交流を創出するピア・サポートを目指して

ーピア・サポート、学生、生協書籍部をつなぐ「第2回本活」

厨川知彦¹・藤原美津穂²

1. 企画の背景と目的

昨年のピア・サポート室で初めてのイベント「本活」が、今年も継続されるかたちで実施に至った。学生が不要になった本をピア・サポート室で回収し、それを必要としている学生に引き継ぐという内容で、本を持ち込んでくれた方には、本の種類や冊数に応じて文房具などと交換を行うものである。具体的なイベントの目的は、

①ピア・サポートが学生間の学術的な引き継ぎを行うことで、先輩が使い学んだ本を通じて後輩が自らの興味関心を高め、進路選択などのきっかけになるような企画とすること。

②新生にピア・サポートという組織の周知を図ること。

であり、今年も同様の目的としている。

昨年の本活では、492冊回収し、頒布機関には約400人がイベントに来て、自分が必要な教科書や、興味のある本を持って行った。予想以上の参加があったほか、このイベントがピア・サポート室の周知にも繋がり、効果の大きなイベントとなった。また、本を渡したり対応している際に、様々な立場の学生とコミュニケーションをとることができ、それがちょっとした相談業務につながることもあり、このイベントがサポーターの傾聴の良い経験となったことも確かであった。さらに、昨年の本活後に参加した「びあのわ」で本活についての報告をすると、高い評価を得ることができ、昨年の本活は比較的成功的イベントだったという印象がある。ただし、いくつかの課題が挙げられており、継続して行うには改善・変更が必要などところもあり、それを踏まえて第2回本活の実施へと至った。

2. 企画の内容

上に示したように目的および本の回収方法(本を持ちこんでくれた協力者には、本の種類や冊数に応じて文房具などと交換する。)は昨年と同じくしながらも、内容は一部変更することとした。変更する理由および変更点については昨年度の報告書ですでに述べたが、昨年度の報告書の発行後に新たに加えられた企画内容について、以下に挙げる。

2. 1 告知方法

在学生だけでなく4月からの新生生への告知にも力を入れるため、新生生に配布される「クラオリパック」に、ピア・サポートの紹介と本活の企画をまとめたチラシを入れた。

¹ 北海道大学法学部 学部生

² 北海道大学大学院工学院建築都市空間デザイン専攻 修士課程

このクラオリパックとは、部活、サークル、学生団体などの紹介や勧誘のチラシが入ったもので、新入生が大学入学直後の情報源として利用するものであり、ほぼ新入生全員の目に留まるものなので、非常に有効な広報になると考えた。

2. 2 本の頒布は行わない

回収した本はピア・サポート室で閲覧できるが、管理上、ピア・サポート室のみでの利用とし、貸出は行わないこととした。ただし、附属図書館で所蔵されている本には背表紙に赤シールを貼っており、図書館で貸出できる場合はそちらでの手続きを促している。

2. 3 本に関する情報提供を積極的に行う

今年度は協力者にアンケートを依頼して、教科書の使い方、参考書の活用方法、文庫本の感想や推薦点などの情報を集めた。これらの情報は、本の表紙のコピーと共に A4 サイズのシート(写真 1)にまとめ、ピア・サポート室内や廊下に掲示したり、ファイリングしたものを本棚の前に置き、いつでも閲覧できるようにした。アンケートのコピーは、回答してもらった用紙をあえてそのままコピーしており、回答者の筆跡などからも思いが伝わるのではないかとと思われる。(ただし、学年や学部などの個人情報は伏せている。)



写真 1

2. 4 協同購入

生協では、一度に同じ本を 10 冊以上購入することで 10%の割引が受けられる協同購入という仕組みがあり、毎年多くの学生が協同購入のサービスを利用している。

今年度より入試制度が変更になり、新入生の中には学部が決まっていない総合入試制度で入学した学生もいる。学部が決まっていないため選択科目の授業が増え、クラス全員が履修する必修科目が少なくなっている。私たちの経験上、協同購入は教科書代の割引が受けられるというメリットだけでなく、入学して間もなくの学生同士のコミュニケーションの場としての要素も持っていると考えている。クラス全員で受ける授業が少なくなってしまうことで協同購入の機会が減ってしまうということが考えられるが、ピア・サポートが介入することで、新入生が学生生活をより円滑に始められるような何らかのサポートをしたいと考えた。そこで今年度新たに、協同購入の案内とサポートを実施することとした。

協同購入のサポートは、以下のような方法で行った。

(1)ピア・サポート室に教科書ごと申込用紙を置き、希望する教科書に参加者の名前を記入する。締め切りは教科書を使う講義の2日前とし、受付をした学生には講義の前日の昼休みにピア・サポート室へ来るよう伝える。

(2)講義の前日昼休みに集合し、その時点で10人以上集まっていれば教科書ごと責任者を決め協同購入に臨んでもらう。教科書ごとに集合時間を10分間隔で設定した。
--

この方法を取るにあたって注意したことは3点ある。1点目は、ピア・サポーターは金銭の授受に関わらないということだ。仮にピア・サポート室を生協書籍部の代理店とすることであれば、学生にとっても一か所で申込みから教科書の受け取りまで済ませることができ、便利であると思う。しかし、金銭や実際の教科書の引渡し場所となると、その分トラブルを生むきっかけを生み出すこととなる可能性が高い。そのため、ピア・サポート室はあくまで申込みの場所として限定し、それ以外の購入や教科書の引き渡しは各学生同士、また生協で行なってもらうこととした。2点目は学生の個人情報に極力扱わないこと。個人情報は名前に限定し、電話番号までは申込みの際に記入を求めないこととした。3点目は場所をピア・サポート室に限定すること。各教室で申込みを受け付けることも考えられたが、ピア・サポーターの人数を考慮するとピア・サポート室でのみ受け付けることが良いと判断した。

協同購入の告知は、協同購入の案内のポスターを掲示と、サポート内容の案内をフローチャートで示し、ピア・サポート室前やアカデミック・サポート室前に掲示した。本活同様、クラオリパックにも協同購入サポートの案内を入れた。

共同購入に関しては、生協書籍部さんにたくさんのご協力をいただいた。ビラを100部ほどお渡しし、来店した学生に対して配っていただいたほか、個人で来店した学生に対し、ピア・サポート室で協同購入のサポートを行っていることの案内をしていただいた。ピア・サポート室に来室した学生の中には、生協で案内されたという学生も見受けられた。

2. 5 日程

2010年10月	平成23年度本活開催決定
2010年11月	生協書籍部神力さんとミーティング (岡本、平)
2010年12月	生協書籍部神力さん、池田さんとミーティング (岡本、青柳、厨川)
2011年1月	本活回収告知ポスター、回収時アンケートの作成
2011年1月17日～	回収、陳列、アンケート実施
2011年3月	協同購入サポートの準備
	生協書籍部神力さんとミーティング (岡本、厨川、堀、水野、藤原)
	クラオリパック用ピラの作成
2011年4月10日	回収時アンケートの回答の掲示
2011年4月12日～22日	協同購入サポート実施 ・主題別科目 4月12日(火)～22日(金) ・抽選科目 4月20日(水)～22日(金)

10月末に先生方や学生支援課の方に向けたピア・サポート報告会の中で、今年度も本活を実施することが決定した。開催にあたっては、大学内で書籍の販売を行っている生協書籍部にこれまでのピア・サポートの活動内容と、昨年度実施した本活の内容を報告に伺い、今年度も本活を行うにあたってのご相談をさせていただいた。生協書籍部からは本活の理念に対しては賛同の意をいただき、新歓期の教科書販売の際にはピア・サポートや本活、協同購入サポートに関するピラを置いていただけることとなり、様々なご協力やご提案をいただいた。

共同購入は主題別科目と抽選科目で受付期間を分けることにした。これは抽選科目が決定するのが4月20日(水)であり、それ以前に受け付けた場合、抽選漏れによる辞退者が多く出るだろうと考えたためだ。

2. 6 回収時アンケート

本を持ちこんでくれた協力者には、回収時に3種類のアンケート(1)教科書、(2)一般書・参考書・その他、(3)2011年度新生へへのメッセージを依頼した。それぞれのアンケートの内容を章末に資料として添付した。なお、アンケート(1)(2)の場合、本1冊につきアンケート1枚としているが、協力者が数冊の本を持ち込んだ場合に何冊分を回答するかは任意としている。そのため、アンケートの回答総数と持ち込み協力者数、および回収した本の総数は一致しない。

3. 結果

3. 1 本の回収

回収は前年度よりも早く1月中旬から始めた。当初は3月31日までと回収期限を決めていたが、さらに本を持ち込みたいという要望もあり、特に期限を設けずに4月以降も引き続き回収を行っている。回収した本数は、以下のように前年の492冊を大きく上回った。

1月	150冊
2月	370冊
3月	274冊
4月	56冊
5月	11冊
8月	5冊
9月	3冊
11月	13冊
合計	883冊

毎年回収の告知にはポスター掲示を行ったが、各学部等や教養棟での掲示は公用掲示板に掲示していただけたので、部活やサークルなどの新歓期の大量のビラに埋もれることなく、学生の目に触れたのではないかと思う。その他、ピア・サポート室入口前にビラを置いて、学生が自由に持ち帰られるようにしていた。2010年11月より北分館前に部屋を移動したことで、以前(教養棟内ボランティア室)よりも人通りが多い立地になり、本活の告知ポスターがより多くの学生の目に留まるようになっていたと思う。

本を持ちこんでくれた協力者の中には、寮に住んでいる他の寮生が不要になった本と合わせて持ち込んでくれた学生、合計で100冊近くを持ち込んでくれた学生、「〇〇全巻」を持ちこんだ自宅生など、一人当たりの持ち込み数多かったような印象を受けた。また、昨年も持ち込んでくれたリピーターの学生もおり、今後も本活というイベントが学内でより一層浸透していつてくれることを期待したい。

今年度の本活で回収した本と、昨年度の本活で頒布されなかった本を合わせると、オープンスペースの本棚の半分以上が埋まっている。今年度の回収総数が851冊であるので、おそらく1000冊ほどになると思われる。今後も引き続き本活を行った場合、本棚が全て埋まってしまうことが予想される。そのようなになった場合に、本をどのように処分するのかという点については、そろそろ考えて行かなくてはならないだろう。

4. 2 アンケート結果

アンケート結果を以下に示す。なお前述したように、アンケート(1)(2)の場合、本1冊につきアンケート1枚としているが、協力者が数冊の本を持ち込んだ場合に何冊分を回答す

るかは任意としているため、アンケートの回答総数と持ち込み協力者数、および回収した本の総数は一致しない。

(1)教科書に関するアンケート

回答総数 58

学部		学年	
文学部	6	学部1年	11
文学院	1	学部2年	7
経済学部	5	学部3年	9
教育学部	4	学部4年	28
法学部	5	学部5年	1
工学部	11	大学院	8
農学部	15	無回答	4
理学部	12		
獣医学部	5		
水産学部	1		
無回答	3		

Q1：講義での使用頻度

1. 毎回の講義で使用した	40
2. 毎回ではないが使用した	7
3. ごくたまに使う程度	11
4. 全く使用しなかった	6
5. その他	テスト前の勉強に使用 4

Q2：テストへの持ち込みの可否

1. もちこめた	6
2. もちこめなかった	48
テストなし、レポート提出、無回答	10

Q3：講義終了後の使用状況

1. あった	11
2. なかった	51
無回答	2

Q4:Q3で「1. あった」と答えた方は、どのような時ときに使いましたか。(複数回答)

1. 自分の研究、勉強のとき	10
2. 趣味で読んだ	3
3. その他	0

Q5:講義の内容、感想、次にこの本を手にする方へのメッセージなど。(一部抜粋)

教科書名	講義名	コメント
アジア日経営業 と労働格差	経済史Ⅱ	吉貝先生はUHB「のりゆきのトーク DE 北海道」にも出ててお話し上手な先生です。講義もおもしろいけど、この本も実際のケースを取り入れてわかりやすく監査について解説しています。
ケースブック監査論	会計学Ⅲ	アルマで出している本は経営系でよく使います。手軽に読めて内容もまとまっているので、その分野について大まかに知りたいときに使えます。
マクマリー有機 化学概論	化学	この教科書を読み進めていく形で授業が行われました。宿題が毎回この教科書に載っている問題が出されました。
クリック！有機化学	化学Ⅱ	CD-ROMがわかりやすい。 講義では使用しませんでした。試験対策で使いました。動画解説で分かりやすかったです。
動画だからわかる 物理	物理Ⅰ	わかりにくい物理の話も動画を使って理解しやすくなっている。講義ではこの動画に先生がさらに解説をつけてくれるのでなおわかりやすかった。
レーブン/ジョンソン 生物学	生物Ⅰ	生物を目指す方は持っていても損はしないと思う。若干高めなので共同購入がよいかと。
生命とは何か	生物Ⅰ	高校で生物を詳しく習わなかったのですが、先生はそれを分かって進めてくれたので、丁寧でわかりやすい講義でした。教科書よりも配布資料を中心に進めていました。

微分	微分	高校で習った数Ⅲの知識が必要でした。高校で使用した教科書も併用すると良いと思います。
微分	微分積分学Ⅰ	予習超大事です。
基礎の徹底 統計学	統計学	生物好きな人は面白い教科書だと思います。
Stra Be Neu	ドイツ語	テストは発音を中心とするもので、先生と1対1で会話のような短いやり取りをするというものでした。とても面白い授業で、歌を歌ったりもしました。
シュトラセ・ノイ	ドイツ語	教科書が丁寧なので、自習しやすい。
ENGLISH Firsthand	英語Ⅰ	クリスチャン・ペリー先生はジョークが面白く、楽しい授業でした。ワードで英作文を書かされるんですが、指定された書式でないと減点されます。
基本的人権の事件簿	日本国憲法	付箋は重要ポイントですよ笑！！
民主と愛国	日本史関連の講義	大変深い&濃い内容なのでぜひじっくりと時間をかけて読んでください。
茶の本	日本文化をめぐるまなざし	教育学部の先生の講義だったので、受講してみたのですが、理系の内容も多く学べたので面白かったです、グループごとに発表することもあったので、他の学部の人とも仲良くなれました。
福祉政治	—	読むとナルホドと思える本ですね。

(2) 一般書、参考書、その他の本に関するアンケート (自由記述)

回答総数 69

学部		学年	
文学部	5	学部 1 年	13
文学院	2	学部 2 年	2
経済学部	2	学部 3 年	13
経済学研究科	2	学部 4 年	20
教育学部	8	大学院	15
法学部	2	無回答	6
工学部	11		
工学院	4		
農学部	4		
農学院	3		
薬学部	1		
理学部	3		
獣医学部	9		
水産学部	3		
国際広報メディア・観光学院	6		
無回答	4		

Q: 感想、お勧めポイント、次に手に取る方へのメッセージ (一部抜粋)

書籍名	コメント
経済のしくみ	サブプライムがよくわかります。
ハングル能力 検定試験 4 級・5 級	ハングル能力検定 5 級を受験するつもりで購入したのですが、途中で 4 級に受研究を変えてもこの本で対応できてよかったです。この本で勉強することで韓国語 II の勉強もできたので、後期統一試験に役に立ちました。
微分法・積分法 の基礎	経済学部は 1 年生で微積・線形代数の授業があると思います。2 年生以降の専門科目やゼミ・卒論でこれらの知識が必要になることがあるので、頑張って受けてほしいところなのですが、授業だけだと、苦手な人は全くついていけない場合も…。基礎は高校受験のものとかのほうがわかりやすいのでお勧めです。
英国留学ガイド 2008	イギリスに留学したいと思う人の入門書です。様々な大学、専門分野が紹介されており、イギリスの大学について知るにもよい本です。

二十一世紀に 生きる君たちへ	坂の上の雲などを書いた司馬遼太郎が、小学生や中学生に向けて書いた本です。司馬さんのこれからの世の中を担う人たちへのメッセージが書かれているため、大学生でも読む価値があると思います。
TOEIC TEST 文法完全攻略	TOEIC の文法書です。この本に出てくる文法は高校でやったものが多いですが、英語が苦手な方、TOEIC で高得点をとりたい方におすすめです。
現代国際法講義 第3版	P 1 1 5 ~ 1 1 7 の北方領土関連の問題は必見です。
論文・レポート のまとめ方	大学では、論文やレポートを書くことが求められます。ところが、レポートの書き方や文章の書き方を懇切丁寧に教えてもらえる機会は意外と少ないものです。この本は、論文やレポートの構成をどのように作っていくか、というところから、かなり細かな文章の注意(わかりやすさ、用語の選定等)まで、よくまとまっています。一読をおすすめしますし、常に参照するにも良いと思います。
演習・微分 積分学	大学で微分積分の授業がわからなくなってしまい、自主学習用に本屋で探して、使いました。
The Little Prince 星の王子さま	一見子供向けのように思えますが、深く考えさせられる内容です。英語は易しめなので、無理なくスラスラ読めると思います。
博士の愛した 数式	主人公や博士の心の動きがじーんとききました。相手のことを思いやることの大切さがわかります。
基礎マスター ドイツ語問題集	とにかく反復して書くことで覚える！という方にお勧めです。教科書だけでは描く機会が少ないと思ったので買いました。
星座	札幌農学校を舞台に若者が様々な悩みを抱えながらもだえ生きていく物語。完結させずに途中で絶筆してしまっているが、だからこそ青春のリアリティにあふれている。
たけくらべ	昔も今も、女性の恋心は同じなんだと思える一冊です。
イサム・ノグチ	イサム・ノグチだけでなく、彼の周りにはいる人々も大変魅力的です。
戦争を知らない 子どもたち	世代的に北山修を知らないと思うけど、この人はフォークで一時代を気付いた人です。本人かつ戦争を知らないと批判された世代であって、今の人間に対する批判ではありません。歌っていた歌がおもしろく、この本も楽しく読めると思います。古い本ではありますが、何か得るものがあるとうれしいです。

「地球温暖化」論に騙されるな！	この本に書かれていることが真実かどうかは分かりませんが、面白い見方なので、「なるほどそーゆー考えもあるのか」と思えます。環境問題好きにはためになるかと。
ウェブがわかる本	インターネットについてあまり触れたことのない人にとって、いくらかの使い方や、どのように役だっているのかについて書かれています。1年の頃は自分のパソコンを持ったばかりで、あまりウェブを使っていなかったと思います。

(3) 2011 年度新入生へのメッセージ(自由記述)

回答総数 29

学部	学年		進路		
文学部	3	学部 1 年	6	就職	7
経済学研究科	1	学部 2 年	3	大学院へ進学	13
経済学部	1	学部 3 年	4	未定	1
教育学部	3	学部 4 年	11	無回答	8
法学部	2	学部 5 年	1		
工学部	1	大学院生	4		
工学院	1				
農学部	5				
薬学部	1				
理学部	5				
獣医学部	3				
水産学部	2				
国際広報メディア・観光学院	1				

Q1: 大学生活を送るなかで最も悩んだこと、困ったこと

Q2: Q1 で挙げた悩みを解決する際に起こした行動

Q1, 2 の回答を整理してみると、以下ようになった。

Q1		Q2	
人間関係	5	本や映画をみる	
		ピア・サポート、学生相談室、保健管理センターを利用	
		積極的にクラス行事に参加した	
		いろいろな人に相談した	
進路	7	研究室を訪問した	

		周りの人に相談した
		様々な経験を積んだ
		本を読む
就職活動	2	周りの人に相談した
学習	5	周りの人に相談した
		空きコマは図書館で勉強した
		研究室を訪問した
部活・サークル	1	勉強を優先するために辞めた
生活全般	4	一日三食を決まった時間取る
		短期の目標を持つようにした
		友達に相談した
金銭	4	アルバイトを始めた
		教科書は先輩や友人にもらったり古本屋で買ったりした

Q3: 北海道大学での学生生活を振り返って（一部抜粋）

貴重な4年間だった。苦しい思い出も今は懐かしい
時間がたっぷりあって、様々なことにチャレンジできた。
快適な反面、それに安住していそうでこわい
北海道ならではの遊び（旅と雪あそび）はたくさんできた。サークルではたくさん の親友ができた。充実していたと思う。
悩みは絶えないが、結構楽しいのはサークルに入ったおかげだと思います。
とても充実した大学生活を送れていると思う。理想通り。
多くの人と出会って接する中で、人間的に成長できたと思う。
札幌はすごく住みやすいところなので不自由なく楽しく過ごせました。
いいクラス、サークルのメンバーに恵まれて、高校までよりもいろんなタイプの 人と出会い、仲良くなれた気がします。入る前は、大学での人間関係ってあっさり しているイメージだったけど、自分はそうじゃなかったなあ。やりたいことに 幅広く取り組めたのが良かった。
一年目は何がなんやらわからなく、2年目でわかりだし、3年目でやっと慣れて、 4年目が一番楽しめた。
北海道は自然が多くて、環境がとても良いので、北大に来て本当に良かったと思 う。周りの人のモチベーションが高いのも刺激になった。
勉強ばかりの生活、そして怠けていたので、これからは自分で考えられるように して、行動したいです。
北大は色々な出身地・学部・学年の方と接する機会があって、勉強になることが

たくさんある。様々な角度から物事を考えられるようになってきたと思う。
友達は大重要！！
初めての北海道、初めての1人暮らしなど初めてづくしでとまどうこともたくさんありましたが、自分なりに楽しめたと思います。困難なことからも学ぶことが多かったです。
一年の時にもっと遊んでおけばよかった！！って思います（笑）
あたたかい人が多いので気持ち良い&楽しい

Q4:これから北大で学生生活を送る一年生にアドバイス（一部抜粋）

せっかく大学に来たのだから、ぜひ研究や読書に力を割いてください。もちろん部活やサークル、飲み会も楽しいものですが、一人であれこれ考える時間を大切にすると良いと思います。
人生を楽しめ！！
自分から動き出すことが大事。すごく難しいけれど、少しづらくてもやってみたらいいと思う。
最初のドキドキを大事にしてください。
悩んだり不安に思ったりしたら、すぐに周りの人に相談してください。皆、親身になって相談にのってくれます。
勉強以外の部活、アルバイト、サークルなど何か頑張れるととても楽しい大学生活になると思います。
1年生でエネルギーのあるうちに、とにかく興味を持ったことにどんどんチャレンジしてみてください。自分自身が今でも続けていることはサークルくらいですが、バイトや一人旅、夏休みの集中講義でイカ釣りに行ったこと、クラークシアターへの参加など、1年生のうちにやったことが今の自分や人脈を作っていると実感しています。就活にも役立ちますし（笑）楽しんで良い大学生活を送ってください。
研究をしっかりとやり、課外活動(部活、サークル、ボランティア)にも積極的に！！
やりたいことがあれば後悔のないよう思い切った時に行動してください。
受け身だともったいない！！
勉強はもちろん大切ですが、それだけではなく、自分がチャレンジしたいことをいろいろ試してみてください。また、そのためにも情報をいろいろと探してみてください。
いろいろな活動に参加して多くの経験をした方が、将来自分のためになっていいと思います。困った時は大学内に助けてくれる場所がたくさんあるので、利用してほしいです。

楽しい場所なので満喫して下さい！！
大変なことも多いかもしれませんが、今しかできないことを精いっぱい楽しんで下さい。そして自分の夢を大切にして下さい。応援しています。
大学生は自由な時間がたくさんあります！！有意義に使って下さいね。
色々な情報に敏感になって興味あることはどんどんやってみましょう！！（掲示板や置いてある雑誌等々）
とりあえず、社会に出る前の最終ステップなので、何にでも挑戦し、色々な経験を積んで成長して、すごい人間になってください！

3. 3 本の閲覧

回収した本はオープンスペースの本棚に陳列した。政治、経済、物理、生物、数学、語学…など、大まかなジャンル分けをしている。本棚は入り口のすぐそばにあり、廊下からもよく見えるので、本棚の様子をきっかけにピア・サポート室に入ってくる学生もいた。自習目的で入ってきたピア・サポート室の利用者にも、本を手にして見られている様子が見られた。すぐ隣は図書館北分館であり、本の閲覧という点では役割が重複している。しかし、陳列している本のラインナップは北大の学生自身がつくったものであり、図書館ではみられないような面白い本棚になったと思う。

3. 4 協同購入サポート

協同購入の斡旋対象の教科書は、基本的には生協書籍部で扱う全ての教科書だが、選択科目である主題別科目 75 種類、抽選科目 67 種類については開始(4/12)前から申込書を準備しておき、申し込みが来た際にスムーズに対応できるようにした。企画段階では、複数のクラスの学生が受講する選択科目にこそサポートの必要性があると考えていたが、実際に受付を始めると外国語や情報学、といった必修科目へのニーズが非常に高いことが分かった。実際、事前に申込書の準備をしていなかった外国語必修科目 11 種類の申し込みがあった。当初は必修科目については各クラスでの協同購入を進めていたが、このような状況から、新たに用紙を設け受付を始めるようにした。結果としては、申込者数(延べ人数)は 66 人で、残念ながら成立した協同購入はなかった。

今回の協同購入サポートという企画では、次の 3 点が反省点として挙げられると考える。第一に、選択科目よりも、外国語など必修科目に対するニーズが非常に強かったということだ。選択科目に限定した理由は、クラスという枠に関係なく履修するのが選択科目であり、それにこそ学生間のつながりを形成することが重要と判断したためである。しかし、総合入試が導入されたことに伴い、これまでの同学部同クラスという枠組みが維持されなくなり、その結果必修科目ですら、クラス内で協同購入するということが昨年までに比べ難しくなっている状況にあったと思われる。この点については、後日生協書籍部の神力さんに聞いたところ、今年度春季の教科書販売では、全体の販売数は前年と比べ大きな変化

は見られていないものの、協同購入の件数が大幅に減少したとのことだった。ピア・サポートによる協同購入サポートだけでなく、従来通りの協同購入も減少したということは、やはり総合入試の影響と考えられる。

第二に、申込みの辞退者が非常に多かったということである。一度申込みをしても、後日別のコミュニティで協同購入を行うことになったために申込みを辞退する学生が多く、なかなか人数が集まらないということが起きていた。

最後に、申し込んだ学生に対して、申し込んだことへの責任を意識させることができなかったことである。あるフランス語のテキストは、申し込みの時点では10人以上の申込者がいたのだが、購入の集合時間に申込者が集まらず、時間通りに集まった学生が迷惑を被ることになってしまった。申込者が別のコミュニティで購入することになり、ピア・サポートでの申し込みをキャンセルしに来なかったことが原因である。申し込んだ段階で、「集合時間に集まらなければ他の学生に迷惑をかける」ということを一言でも付け加えておけばよかったと反省している。これまでの協同購入では面識のある者同士で行われていたが、今回のような面識のない者で行なう協同購入では対処すべき問題であることを意識させられた。

4. 考察

今回は昨年を大きく上回る数の本を回収することができ、それとともにアンケートも充実した回答を得ることができた。回収したアンケートの学年別の回答数をみると、(1)(2)(3)ともに4年生の割合が一番高い。これは昨年と同様に、卒業を機に本を処分しようとした学生が、本活のほうへ協力してくれたことによると考えられる。またその分、アンケートでは4年生からの「北大で4年間生活してのコメント」をいただくことができ、これから北大で学生生活を送る新入生にとって有益な情報になるのではないかと思う。(3)のアンケートの中で、悩みがあったときの解決方法としては、「周りの人に相談する」という回答が多かった。まずは自分にとって身近な人に相談することで、解決を求めているようだ。ピア・サポートでは、「何かわからないことがあったら、まずピア・サポートへ、気軽に来室してください」という立場を持っているので、「周りの人」と同じように解決の糸口になるような役割として認知されたいと思う。

依頼したアンケートのうち、(2)一般書、参考書、その他の本についてのアンケートの回答については、本の表紙コピーと共にA4サイズのシートにして廊下に掲示した。さらに、本自体にもアンケートを帯のようにつけて、本を手にした際にメッセージが読めるようにした。廊下に掲示した方は、その内容を興味深く学生の姿がよく見られる。現在は(2)のアンケートシートをピア・サポート室内に掲示し、廊下には(3)のアンケートを同様の形式にして掲示している(写真2, 3)。このような形式によって、間接的ではあるが、本を媒介として「本を持ちこんだ学生」と「その本を手にした学生」、「先輩」と「後輩」との間をつなぐことができ、本活の理念である「ピア・サポートが学生をつなぐ役割を担うこと」が達



写真 2



写真 3

成できたと思う。

今回はこのようなアンケートを実施したことで、本を持ちこむ学生とピア・サポーターとのコミュニケーションが創出された。こちら側からピア・サポートの活動内容を説明するだけでなく、学生のピア・サポートに対する印象なども聞くことができ、自分たちの活

動を客観的に知ることができた。今後の業務でも、事務的なやり取りだけでなく、こうした会話を取り入れることで、ピア・サポート室を気軽に利用してもらうことへと繋げていきたいと思う。

本活を始めてからのピア・サポート室は、先輩方の利用した本が閲覧できること、そして先輩方が勉強してきた足跡が見られることが大きな特徴となっている。先輩方のメッセージも閲覧できるようにすることで、先輩から後輩への「学術的な引き継ぎ」を行うことができている。今後は、後輩が得たそのような情報がどのように生かされたのか、または本があることがピア・サポート室の利用とどのように結びついているのかなど、情報の受け取り側の意見を集めることも必要ではないかと思う。

今年度に入り、ピア・サポート室を利用してくれる学生の中には「本活でピア・サポート室を知った」と話す学生もおり、本活がピア・サポート室の周知に効果を生んでいたことを実感しながら活動することができている。このことから、昨年度の本活は、「ピア・サポートの周知」、「ピア・サポーターと学生の交流」のためのイベントという意味合いが強かったと言えるが、今年度はピア・サポート室だけにとどまらず、より「人と人のつながりを創出すること」を重要視した本活を計画した。本を媒介として利用者同士のつながりを作ったり、北大生協書籍部という大学内の組織と協力して共同購入のサポートを試みたり、ピア・サポートの活動範囲は今まで以上に広がってきていると思う。大学内には多くの学生、多様な組織が存在しているが、それらをつなぐことができるのがピア・サポートの役割であると思うし、今年度の本活はその第一歩になったのではないだろうか。

今年から場所が北分館隣に移動したことで、より多くの学生がピア・サポート室を利用してくれているが、本活の準備中には学生だけでなく、図書館を利用している一般市民の方からもピア・サポート室の業務や本活の企画に興味を持っていただくことができた。昨年の本活計画時に、「学生だけではなく学外の地域の方も対象にしては」という案もあったが、将来的にその案を実現するような可能性を考えてみても、面白いのではないかと思う。

協同購入サポートにおいては、今回は成立がなかった。しかし、クラス環境の変化に伴い、むしろピア・サポートによる協同購入サポートは重要度を増しているといえる。これまでクラス内で解決できていたことができなくなった今こそピア・サポートの出番である。クラス単位が中心だった協同購入を、今後はピア・サポートが担うことで、新入生がピア・サポート室を利用する導線を4月のうちから構築することも可能である。結果、ピア・サポート室を多くの学生に認知してもらい、例えばその学生が卒業する時には本の寄付という形で本活に協力してもらおうという循環を活性化できる。そのような効果をいち早く実現することを目指し、今回の結果を活かしたいと思う。

以上のように、今回の企画内容の成果は様々だが、この反省を次の活動にいかし、イベントごとにとどまらず通常業務のなかでも、さらに学内のつながりを広げられるような活動を実施していきたい。そして来年度の本活でも、新たな成果が生み出せることを期待したいと思う。

[資料]

_____学部・研究科・院 _____学科・専攻 _____年

男性・女性（いずれかに○）

教科書名：（ _____ ）

講義：必修科目・選択科目

講義名（ _____ ）

講義を受けた学年（ _____ ）年

講義場所：教養棟、（ _____ ）学部・研究科

(1) どのくらいの頻度でつかいましたか。

1. 毎回の講義で使用した
2. 毎回ではないが使用した
3. ごくたまに使う程度
4. 全く使用しなかった
5. その他（ _____ ）

(2) その教科書はテストに持ち込みOKでしたか。

1. もちこめた
2. もちこめなかった

(3) 講義がお終わった後、使用する機会がありましたか。

1. あった
2. なかった

(4) (3)で「1. あった」と回答した方に

どのようなときに使いましたか。

1. 自分の研究、勉強のとき
2. 趣味で読んだ
3. その他（ _____ ）

(5) 講義の内容、感想、次にこの本を手にする方へのメッセージなどをお書きください。

（ _____ ）

ご協力ありがとうございました

_____学部・研究科・院 _____学科・専攻 _____年

男性・女性（いずれかに○）

書籍名（ _____ ）

感想・おすすめポイント・次に手にとる方へのメッセージなど

ご協力ありがとうございました。

本日は、「本活」にご協力いただきまして、まことにありがとうございます。今回、回収させていただいた書籍は、ピア・サポート室で新入生をはじめとした利用者に閲覧していただけるようにいたします。

本活を主催しております「北大ピア・サポーター」は、真に学生のためになるサービスを提供するべく活動を行っております。来年度は新たに新一年生への情報提供の場としての機能を強化する予定です。つきましては、在学生の皆様のご経験をお教えいただけませんか。お書きいただいたものにつきましては、新一年生への情報提供、および、ピア・サポート業務の中で統計資料として活用させていただきます。お忙しいところ、ご面倒をおかけしますが、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

ピア・サポーター学生代表

岡本健

_____ 学部・研究科・院 _____ 学科・専攻 _____ 年

【性別】男性・女性 【出身地】道内()・道外() 都府県)

【進路】就職()・進学()

Q.1 大学生活を送るなかで最も悩んだこと、困ったこと、を教えてください。

()

Q.2 上で挙げた悩みを解決する際に起こした行動はどのようなものですか？

()

Q.3 北海道大学での学生生活を振り返っていかがですか？

()

Q.4 これから北大で大学生活を送る一年生にアドバイスをお願いします。

()